

山形大学附属学校園だより

# 六 稜

2008. 10. 14

【発行】  
山形大学附属学校園

【印刷】  
坂部印刷株式会社

## 附属学校園の更なる発展のために



山形大学長

結城 章夫

新たに、「山形大学附属学校園だより六稜」が創刊されますことを心からお慶び申し上げます。

さて、全国の国立大学は、平成十六年四月に法人化され、自主・自立の経営を行っていくことになりました。国家財政が危機的な状況にあるため、国立大学法人に対する国からの運営費交付金は、毎年、一パーセントずつ削り込まれています。また、閣議決定によって、平成十八年度から平成二十二年度までの五年間で、山形大学の総人件費を五パーセント削減することが義務づけられています。

## 親子ってなんだろう？



附属中学校PTA会長

西谷 一

「子供」という表記を避けて「子ども」や「こども」と表記するよう推奨していることがよくあります。それは「供」は「お供」が親の付随物と連想されるためです。「こども」は精神的、肉体的に未熟であり、保護や教育が必要であるという観点から子が権利を行使する際、不十分な部分を親などが補っています。当然、この親などによる補完は子の成長に応じて制限されてきます。

ます。このような事情から、私は、学内のすべての部局に対し、経費の節減と、常勤教職員の定数の削減を求めているところです。附属学校園も、例外ではありません。どのような組織も、時代と状況の変化に合わせて仕事の進め方を見直し、改革していくことが必要です。

私は、附属学校園は、山形大学にとりましても、また、地元山形にとりましても、宝物のような存在だと思っています。だからこそ、外からの要求に応えながら、附属学校園がこれからも末長く存続し、発展していけるように、関係者の叡智を集めて、様々な経営上の工夫をこらしていくことが必要だと考えています。今回の改革の着地点は未だ見えませんが、「附属学校園が児童・生徒にさらに良い教育ができるようになる」ということを基本に据えて、これからの改革の道筋を考えていきたいと思っています。私も、附属学校園の更なる発展のために、全力を尽くす覚悟ですので、皆様方のご理解とご協力をどうぞ宜しくお願いいたします。

幼児まではただ可愛いだけですべて親がかまっています。それが自我の確立とともに、親などの関与を次第にいやがるようになってきます。その時、親はいつでも自分の下に子を引き戻せると思っています。幾度となくその繰り返しの後、子は親の干渉を拒み、ただ援助のみ求めるようになります。

よく「母」は子がいつでも帰って来られる「港」だと言われます。どんな状況になっても子を無条件に慈しみ、その胸に抱きしめてくれる存在だからです。だからこそ母親は本当に困ってしまつた後、重大なことを打ち明け助けを求めてくるのです。では、その前に探りを入れるべく話をされる、父親の存在は何なのでしょうか？

誰にとっても一番大事に思っているのは家族です。PTAの集まりの中で皆さん夫々の親子関係について話し合いを持ちたいものです。



真心バザーの様子

**特別支援学校での活動紹介**

本校では年間を通じて数多くの活動がありますが、昨年行われた中学部・高等部を中心とした手作りの「真心バザー」では、附属幼稚園の園児・保護者の方にも参加していただき、子どもたち一人一人が真心を込めて作った製品や学校の畑で栽培したポプリの販売などで開催されました。また、PTAの交流の一番大きな活動として「つくしの会」を毎年開催しています。今年も九月に開催しましたが、小学部・中学部・高等部という学部の枠を超えて先生方や保護者がお互いの子どもたちの話をしたり、いろいろな情報交換の場、父母の新しい交流の場になりました。四附の中では、ちよっと場所が離れていますが、これからもよろしくお願ひします。

特別支援学校での活動紹介

会田 厚志



「ほくのわたしのふるさとコンクール」会長賞受賞  
**「動物園がほくの町にやってきました!『ライオン』」**  
 山形大学附属特別支援学校 高等部2年 築達隼人

**中学校での各学年行事紹介**

（中学校PTA副会長 遠藤 靖彦）

創刊にあたり、まず、中学校においての各学年の大きな行事を紹介させていただきます。

三年生は高校入試が主体となりますが、宿泊研修があり磐梯山にて開催されました。登山の途中で激しい雨に見舞われましたが、声を掛け合いながら頂上まで登りました。今後、みんなで「大きな山」を乗り越えて欲しいものです。

二年生は今年、神戸・大阪・京都への研修旅行（修学旅行）がありました。出発の飛行機トラブルにて仙台空港で六時間近く足止めを喰ったハプニングがありました。

一年生は例年宿泊研修が花山で開催されていますが、今年は地震の影響から会津に変更となりました。夜間ハイクで眺めた満天の星空・天の川が印象に残ったとのこと。

PTAについては今年より役員の数と選考基準が若干変更となり、各クラス三名ずつの評議員の数が二名に変更となりました。その他の役員についても、各クラスから選考する部分については基準が緩くなり、選考が今までよりスムーズになりました。小学校よりPTAとしての活動は少なくなりまして、多くの保護者の皆さんに参加協力いただければと願っております。



日本生活科総合的学習教育会での合唱発表



ふよう夏まつりの流しぞうめん

**附属幼稚園のふよう夏まつり**

（幼稚園PTA会長 黒澤 博志）

このたび「附属学校園だより」が創刊されますこと、心よりお祝い申し上げます。また、平素より当園のPTA活動に対し、ご理解とご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。

当園のPTAは、運動会を担当する係部、餅つきを担当する行事部、広報誌を担当する広報部、図書を担当する図書部の四つの専ら活動を行っています。また、有志により夏休み中に夏まつりも開催しています。子どもたちは、普段体験できない流しぞうめんや沢ガニつかみ取り、マジックショーやいも煮、レンジャーショーなど「ふよう夏まつり」ならではのアトラクションを十分に楽しめます。この夏まつりには、当園の子どもたちの他に、卒園した小学生や地域の子どもたちも大勢遊びに来ます。近年、直接顔を突き合わせて交流する機会が減り、人と人との関わりが希薄なものになりつつある中、PTA活動を行っている仲間の大切さを改めて実感いたしました。

私たちPTAは、豊かな自然と先人の築いた伝統を礎にし、自由かつ創造的な意見を積み上げ、他の附属二校と連携を取りながら、自慢できる附属幼稚園の構築の一助を担っていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

で、保護者自身が学校をより身近に感じることにつながり、それがPTA活動を活性化させていく原動力になるものと考えます。

附属小学校は、諸先輩方が築き上げてきた百三十年の歴史と伝統をふまえながら、また新しい一歩を歩みだしていきます。

PTAによる校舎掃除

**小学校百三十年記念行事**

（小学校PTA会長 桂木 宣均）

附属小学校は本年創立百三十年を迎えます。記念授業は三つあります。

十月十日に創立記念式典を挙行政し、式典のあと、山形大学の演奏会を開催し、子どもたちに生の素晴らしい音を感じてもらいます。

二つ目は、校舎の航空写真を撮り、それを下敷きにして子どもたちの記念にしてもらいます。

三つ目は、百二十年からの十年間の活動をまとめ、小冊子を発行します。

また、PTA活動については、一昨年から全員参加型の活動になりました。本年はその三年目ではぼ定着してきました。

子どもたちの登下校を指導したり、運動会の運営をお手伝いしたり、校舎の掃除をしたり、保護者一人ひとりが学校に関わることにあります。そうすること

4 種目で県制覇

7月18日～21日に行われました県中学校総合体育大会において、サッカー部が史上初の優勝を成し遂げたのをはじめ、個人種目においても剣道・卓球・柔道において県1位を勝ち取りました。中でも剣道部の佐藤全君は、8月に行われた全国大会において、2年連続で全国3位の快挙を成し遂げました。

主な行事と日程

- 7月4日 PTA全役員会(約100名参加)
  - 7月6日 PTA施設厚生部 樹木整備作業
  - 7月9日 大運動会(PTA体育部協力)
  - 9月7日 PTA学年対抗ソフトボール大会
  - 11月13日 合唱コンクール(於:テルサ)
- ※附属学校園保護者の皆様のご来場をお待ちしております。

追伸:平成21年7月16日(木)～17日(金)に、全国国立大学附属学校園北海道・東北地区PTA研修会が、ここ山形に於いて開催されます。事務局は、中学校になりますが、各附属学校園のご協力をよろしくお願いいたします。



附属中学校

本園では、今年度より「保育サポーター」を設けました。園行事に保護者の皆様の得意な分野を生かして積極的に関わっていただき、内容の充実を目指す取り組みです。例えば、誕生会での絵本の読み聞かせや楽器の演奏、おやつ作り、野菜収穫パーティーでの調理のお手伝い、ステージフェスティバルでの衣装や小物作りなどです。

参加者からは「我が子の園での様子がよくわかった」「一緒に活動できてとても楽しかった」という声も聞かれます。こうした行事を通じて家庭と園との連携が深まり、より豊かな園生活が送れることを願っています。

主な行事と日程

- 5月 親子園外保育
- 7月 年長児蔵王合宿
- 9月 運動会
- 10月 もちつき
- 12月 ステージフェスティバル



附属幼稚園

本校は、平成19年4月1日より、旧養護学校から特別支援学校に校名を変更しました。特別支援教育がより重要視され、小学校・中学校の通常学級の支援にも特別支援学校が持っているノウハウが活用されています。大学との連携を更に深めつつ、地域のセンターとしての役割に取り組んでいます。今年3月、バリアフリー化工事が終了し、昇降口の自動ドア化、小学部トイレの改修、エレベーターの設置等教育環境が一段と整備されました。一人一人が主体的、意欲的に楽しく学んでいます。ぜひ、本校にもお越しください。

主な行事と日程

- 4月26日 PTA総会、学部学級懇談会
  - 5月31日 運動会
  - 10月7日 山大バザー(高等部)
  - 12月18日 発表会
- ※毎月1回フリー授業参観日



特別支援学校

附属小学校は、今年度130周年を迎えました。10月10日に記念式典を挙行し、これからの更なる附属小学校の発展を祈念しました。

附属小学校では、日常的に異学年交流を大切にしています。「みのり班」という縦割り班があり、その班で清掃に取り組んだり、千歳山に助け合って登ったりしています。そのような取り組みの中で、上学年生は下学年生のことを思いやり、下学年生は上学年生の良いところを受け継ぎ、自分たちが大きくなったときに後輩たちにつなげていくことができるようになってきています。

そのような営みが、これからも附属小を支えていくことでしょうか。創立130周年を経て、さらにすてきな附属小学校にしていきたいと思えます。

主な行事と日程

- 6月20日 春の公開研究会
- 9月13日 大運動会
- 10月10日 創立130周年記念式典
- 11月14日 秋の公開研究会
- 2月27日 6年生を送る会
- 3月19日 卒業式



附属小学校

- 編集委員
- 佐藤 昌子 佐藤加代子
  - 高橋真紀子 青山祐紀子
  - 澤根 景子 丹野 裕子
  - 守川加津子 松本 千草
  - 西村 千嘉 木村 知子
  - 及川詩以子 小林久美子
  - 深瀬 浩子

新たな種をまくことは土を耕し、肥料を撒き、毎日手入れをし、芽が出るのを首を長くして待つことです。この「六稜」も多くの方の手を経て、協力をいただき、良い紙面のためにご意見をいただき、やっと皆様に見ていただくことができます。まだ小さな芽でしかありませんが、これからの附属学校園のために少しずつでも成長し、深く強い根が張っていくことを心より願っております。

山形大学附属学校園だより「六稜」が創刊されました。なぜ附属学校園だよりのタイトルとして、「六稜」が使われたかというところ、「四校すべての校章が六稜だから」です。そして「六稜」とは、「雪華を意味している。北の国山形で、たくましく、強く清らかに生きてゆく山形大学四附属生を象徴している」からです。

編集後記